

I. 神奈川県内 b. 溶岩

(1) 多摩ローム層と真鶴岬溶岩の接触露頭 剥ぎ取りおよびレプリカ再生標本

標本番号 KPM-NP 15

標本名 多摩ローム層と真鶴岬溶岩の接触露頭 剥ぎ取り
およびレプリカ再生標本

大きさ 幅 0.61 m, 高さ 1.06 m

重量 9.5 kg (板付き)

形状・展示・収納状況 板に固定した状態で大型移動
棚に収蔵

採集地 神奈川県足柄下郡湯河原町福浦

緯度・経度 N35°09'03", E139°08'04"

標高 3 m

露頭の種別と現状 海食崖の自然露頭、現存

露頭面の向き、傾斜 N70°W、85°S

堆積物の種別 溶岩、降下テフラ (陸成層)

年代 0.15-0.14 Ma (真鶴溶岩グループ, 長井・高橋,
2008)

採集作業者 森山哲和 (考古造形研究所)

採集立会い者 笠間友博

採集日 2011 年 11 月 8 日

関連文献等

長井雅史・高橋正樹, 2008. 箱根火山の地質と形成史.
神奈川県立博物館調査研究報告, (13): 25-42.

箱根団体研究グループ, 2000. 箱根火山南東麓の地
質 (その 3) - 真鶴半島 -. 関東の四紀, (23):
3-8.

解説 真鶴溶岩グループに属する真鶴岬溶岩は、真鶴
半島の土台をつくる厚い溶岩である。湯河原町福浦
港わきの海食崖では、その最下部が露出し、箱根ジ
オパークのジオサイト (カツラゴ海岸) になってい
る。箱根団体研究グループ (2000) はこの露頭の調
査から、真鶴岬溶岩が Tu-20 テフラと Tu-21(TAu-5)
テフラの間の時期に、この場所で噴出したことを示
した。

剥ぎ取り標本は、溶岩と火山灰土という物性の大き
く異なるものを跨いで作製する必要があった。この
ため火山灰土 (溶岩に接する側が高温酸化で赤色
を呈している) は通常の剥ぎ取りで作製し、溶岩は
型取りで作製した (上部の黒色の部分、色は着色)。
ただし、型取りは剥ぎ取りに合わせて左右反転させ
る必要があった。これは型の凹凸を反転させること
によって、左右反転した雌型つくって対応した。な
お、作業時間の関係上、両者は少し離れたところで
作製されている (図 1b-1-2 (下) 参照)。

記録者 笠間友博

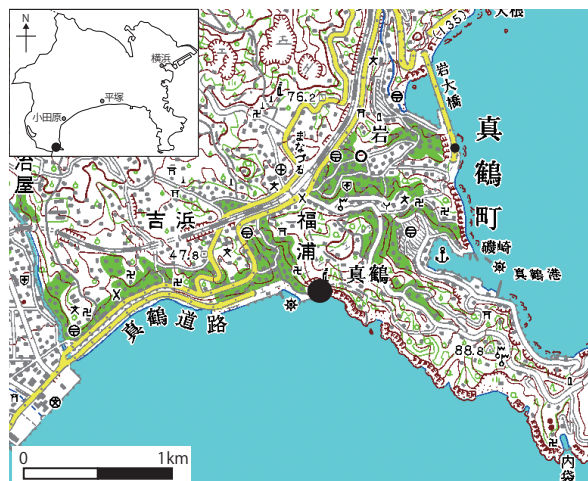


図 1b-1-1. 採集地点 (国土地理院発行の数値地図 50,000 (地図
画像)「埼玉・東京・神奈川」を使用)。

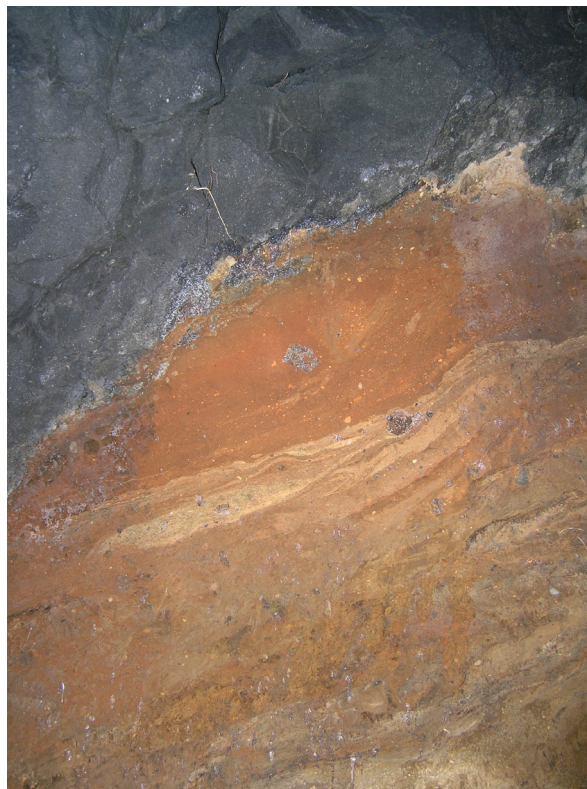


図 1b-1-2. 剥ぎ取り標本の採集露頭 (上) と作業の様子 (下)。



図 Ib-1-3. 剥ぎ取り標本の写真.



図 Ib-1-4. 剥ぎ取り標本の展示の様子 (2011 年度企画展「箱根ジオパークをめざしてー箱根・小田原・湯河原・真鶴の再発見ー」).